

科学研究費助成事業（基盤研究（S））研究進捗評価

課題番号	22229008	研究期間	平成22年度～平成26年度
研究課題名	視神経脊髄炎の新たなアストロサイトパチーの疾患概念の確立と病態、治療に関する研究	研究代表者 (所属・職) (平成27年3月現在)	糸山 泰人 (国際医療福祉大学・副学長)

【平成25年度 研究進捗評価結果】

評価	評価基準
A+	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
A	当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
○ A-	当初目標に向けて概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
B	当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
C	当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である

(意見等)

AQP4 に対する抗体が肝要な疾患であるが、その測定方法が国際的なワークショップで tranfection した細胞を使うという解析に難解で Western blot で検出できない構造を認識している。抗体測定法により客観的な方法の開発が望まれる。

また、ヒトの抗体と補体ではヒトの細胞は死なないため、この疾患のサイトパチーが真に抗体によるか疑問が残る。補体以外のマクロファージの関与などを組織学的に検索する必要があると思われる。

なお、Facs を購入しており、それを患者の末梢血の解析、サイトカインの解析に使用すると記載されているが、使用計画・データが見当たらない。

以上、幾つか疑問点もあるが、概ね研究は順調に進められている。

【平成27年度 検証結果】

検証結果	当初目標に対し、概ね期待どおりの成果があったが、一部上がらなかった。
A-	本邦を含む東アジアにおいて発症頻度の高い視神経脊髄炎（NMO）は、研究代表者らのグループによる多数の特異抗体（抗アクアポリン4抗体）陽性患者の研究により、アストロサイト病としての疾患概念や新たな診断基準の確立に至っており、顕著な成果を上げている。さらに、髄液中の GFAP など新しい疾患マーカーも同定した。 これらの成果に基づき、国際的研究チームの協力を得て本疾患の治療指針を複数の英文誌に発表した。 一方、アクアポリン4抗体産生機序、疾患発症への関わり、新規治療法開発には十分な成果が得られたとは言い難い。